

(報道発表資料)



京都市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



令和 6年 3月 29日
京都市保健福祉局

健康長寿のまち・京都推進室健康長寿企画課
電話075-746-7734

若年性認知症と診断を受けた方向けの冊子の発行

この度、京都市では、若年性認知症※と診断を受けた方に向けて、「若年性認知症と診断されてすぐのあなたに伝えたいこと」をテーマにした冊子を、若年性認知症の当事者本人・家族の皆さまと一緒に作成しました。

市内で精神科、神経内科を標榜する医療機関や、高齢サポート（地域包括支援センター）等で配布する他、京都市情報館のデジタルブックとしても公開しておりますので、ぜひご覧ください。

※若年性認知症とは

65歳未満で発症する認知症のことを「若年性認知症」といいます。若くして発症するため、家庭や社会の中で中心的な役割を担っていることが少なくありません。

平成30年時点の全国の若年性認知症患者数は3万5,700人で、若年性認知症有病率は18歳～64歳人口10万人当たり50.9人と推計されており、京都市内には約400名を超える若年性認知症のがいると推計されます。

1 冊子について



冊子名称：あなたに伝えたいこと

～ひと足先に若年性認知症になった私たちから～

装丁：A4版 12ページ

発行年月：令和6年3月

発行部数：5,000部

配布場所：
・市内で精神科、神経内科を標榜する医療機関
・高齢サポート（地域包括支援センター）
・京都市認知症初期集中支援チーム事務局
・京都市認知症疾患医療センター
・京都市長寿すこやかセンター
・各区・支所保健福祉センター 健康長寿推進課 他

☆冊子は上記での配布のほか、デジタルブックにてご覧いただけます。

<https://www.city.kyoto.lg.jp/digitalbook/page/000002291.html>



冊子の表紙・裏表紙には、本市在住の若年性認知症当事者本人である下坂厚氏よりご提供いただいた、お写真と文章を使用しています。

2 冊子の内容

冊子はつぎの4つのパートで構成されています。

(1) まずは認知症について知ることから始めてみませんか？

「認知症とは何か」をお伝えしたうえで、診断後の認知症との向き合い方の参考となるよう、若年性認知症と診断を受けた当事者本人の声を掲載しました。

(2) なかまと出会い・つながることで元気になりました！

診断後に気持ちが前向きになるためには、なかまとの出会いが大切であると、多くの当事者本人・家族が実感されていることから、なかまと出会い・つながることへの本人インタビューや、仲間と出会い・つながることができる場所の紹介をしています。

(3) これからのことについて一緒に考えてくれる人がいます

これからの暮らしを考えていただくうえで、支援者との出会いも欠かせないため、若年性認知症に特化して相談支援を行う「若年性認知症支援コーディネーター」の役割について紹介しています。

(4) 若年性認知症の方が利用できる制度・サービスの一例／身近で接する方へ

若年性認知症の方を支えるための制度やサービスは、とてもたくさんあるため、そのうちの主なものについて、列記しました。

また、若年性認知症の方と身近で接するご家族等への支援として、家族同士が出会い、気軽に相談できる場所を掲載しました。

私たち、若年性認知症の本人・家族が
一緒に作りました！



冊子の作成にあたっては、若年性認知症当事者本人・家族の皆さまと協議をする「編集会」を4回にわたって開催し、冊子に掲載するお話をお聴きしたり、内容に関するご意見をいただいたりしました。

